

2. C O C + 参加協働機関（自治体）から 見た本事業の取り組みに対する評価

奈良女子大学編

奈良女子大学への評価

平成 29 年度の奈良女子大学が事業協働機関と実施した COC+事業の満足度について、奈良県・下市町・野迫川村・十津川村の 4 自治体に調査を行った。

調査の結果、 (A) 大変評価する : 3 自治体 (奈良県・野迫川村・十津川村)

(B) 評価する : 1 自治体 (下市町)

の回答を得た。したがって協働自治体の満足度は 100%である。

各自治体からの個別評価は以下のとおりである。

2. 1 奈良県

奈良県の女性の就業率は全国最下位であり、全国と比べて 30 代の子育て期の落ち込みが大きく、40 代では全国では 20 代後半と同程度まで回復しますが、本県では十分に回復していません。

また、本県では、「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的性別役割分担意識が、全国と比べ強く、特に 30～50 代男性で強くなっています。本県の県外就業率は全国 2 位ですが、就職・転職希望の女性の約 8 割が県内就職を希望している状況です。

このような状況を踏まえ、奈良県では「女性活躍に関するマインド改革」や「女性の県内就職の促進」等に力を入れて取り組んでいます。

このため、地域を志向した教育と地域活性化、地域が求める課題解決等、奈良県の地方創生に教育機関として取り組む奈良女子大学、奈良県立大学及び奈良工業高等専門学校の COC+事業の事業協働機関として、奈良県では以下の取り組みを実施しました。

「女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト」は、平成 28 年度「県内大学生が創る奈良の未来事業政策提案」の一つとして事業化し、提案メンバーである奈良女子大学学生・大学院生のほか、やまと共創郷育センター及び県で構成するプロジェクトチームによりイベント、講座等の企画・運営を行いました。学生が「こんな就活イベント・講座だったら自分たちも参加したい!」というアイデアを取り入れた内容としました。

本事業は、本県と COC+事業実施 3 校との共催により開催しました。

●女子大学生ワーク&ライフ EXPO

就職活動のスタートラインに立つ前の女子大学生等が、“働く女性のリアルな話”を聞くことで働き続けることを含めたライフプランをイメージするとともに、県内企業の魅力について知る機会を提供することを目的として開催しました。

あいにくの雨にもかかわらず、多くの女子大学生等が参加し、女性が働き続けることに前向きになれる中瀬ゆかりさんの講演を聞くとともに、県内企業の先輩社員とざっくばらんに“働くこと”について話す「企業テーブル」も盛り上がりを見せました。

日時 平成 29 年 10 月 21 日 (土) 11 時～16 時 30 分

会場 奈良女子大学体育館

内容 記念講演 新潮社出版部部長 中瀬ゆかり氏 (奈良女子大学出身)

県内企業 25 社の女性と普段着感覚で交流でき、就職説明会では聞けないような社員のリアルな本音を聞くことができる「企業テーブル&パネルトーク」

就活メイク講座・眉毛カット、奈良を楽しむコーナー、制服試着、保護者セミナー、他



図1 記念講演



図2 企業テーブル



図3 パネルトーク

●キャリア形成講座

女子大学生等が将来の漠然としたイメージを具体的なライフプランに置き換え、自分らしく「生きること・働くこと」の意識を持つことを考える講座です。ライフデザイン基礎講座とファイナンシャル・プランニング講座を組み合わせた連続講座で、ロールモデルとの交流や楽しめるワークショップなどをおとして、将来の就活・仕事に長く生かせる「自分の軸」を見つけてもらうことを目的に開催しました。

ロールモデルのお話からは多様な人生の選択があることを学び、「ライフキャリアレインボー」や「ライフラインシート」のワークなどをおとして自分の「価値観」や「大事にしたいもの」を明確にし、将来の「ありたい姿」をイメージする機会を提供しました。

A 日程：平成 29 年 11 月 25 日，12 月 2，9，16，23 日 会場：奈良女子大学

B 日程：平成 30 年 1 月 27 日，2 月 10，17 日 会場：奈良県立大学



図4 キャリア形成講座

●県内企業魅力体験 DAY

女子大学生等が、県内企業の様々な分野で活躍する女性の働く姿を間近に見ることで、自分自身の将来の姿に置き換え、働き続けることや「奈良で暮らす・働く」ことに対して、より具体的なイメージをもつことを目的に開催しました。

時期：平成 30 年 2～3 月の 1 日

場所：県内企業・事業所

以上のように、3 校と奈良県が連携・協力しながら事業を実施することにより、県の女性就労支援の取り組みの対象の一つである若年層のニーズ把握や効果的な事業企画に効果が見られました。

引き続き、相互の事業について協力して推進していきます。

(1) 奈良女子大学に対する活動ごとの個別評価

1) 「女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト」活動に対する活動ごとの個別評価

☒ (A) 大変評価する

☐ (B) 評価する

☐ (C) あまり評価しない

☐ (D) 評価しない

2) 「女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト」活動に対するコメント

奈良女子大学やまと共創郷育センターには、EXP0 やキャリア形成講座のための会場提供や学生への周知及び EXP0 を単位取得講座の一部への位置づけにご協力いただき、多数の学生に参加してもらえました。

プロジェクトメンバーの奈良女子大学学生・大学院生による、事業の企画・運営、SNS 等による情報発信、ゼミや校門前での PR 等、プロジェクト全般に渡って力を発揮していただきました。

3) 総合評価

☒ (A) 大変評価する

☐ (B) 評価する

☐ (C) あまり評価しない

☐ (D) 評価しない

4) 総合評価に対するコメント

プロジェクト実施に幅広い協力をいただきました。

2. 2 下市町

(1) 奈良女子大学に対する活動ごとの個別評価（複数回答あり）

1) コミュニティ・リサーチ活動に対する評価

- (A) 大変評価する
- (B) 評価する
- (C) あまり評価しない
- (D) 評価しない

2) コミュニティ・リサーチ活動に対する評価に対するコメント

下市町の地域コミュニティの課題について知識を深め、コミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上を図る目的で、下市町の各所を訪問し地域住民と交流しながら地域ムラ資源点検インタビュー（集落点検）を奈良工業高等専門学校と合同で実施。学生が下市町で活動しながら地域コミュニティの課題等を知ると共に、集落点検のインタビューの結果を一人ずつフォトブックにまとめ配布頂くといった形に残る成果があり、地域の元気にも繋がった。



下市町を知る（アクティビティーセンター）



集落点検（ムラ資源点検）



集落点検（ムラ資源点検）データ整理



集落点検参加者集合写真



下市町内巡検



朴ノ葉寿司作り体験

3) コミュニティ・アクション活動に対する評価

(A) 大変評価する

(B) 評価する

(C) あまり評価しない

(D) 評価しない

4) コミュニティ・アクション活動に対する評価に対するコメント

下市町の地域コミュニティの課題について知識を深め、コミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上を図る目的で、昨年度の授業で作成等を行った観光ビデオクリップの更新、ご当地ソフトクリーム改良を行った。下市町の多様な住民との連携・交流と共に、行政機関や企業との連携にも繋がった。



ファシリテーション（アクティビティセンター）

※下市町の女性がファシリテーター



柿の収穫体験



現地実習（撮影・住民インタビュー）



現地実習（撮影・割箸インタビュー）



ソフトクリームの改良（奈良県農業研究開発センター）



ライフヒストリー フォトブック等贈呈（集落点検結果報告）

5) 総合評価

- (A) 大変評価する
- ☒ (B) 評価する
- (C) あまり評価しない
- (D) 評価しない

6) 総合評価に対するコメント

下市町としては、学生が地域で自ら学ぶと共に、地域も元気になる取り組みを目指しています。集落点検、地域資源発掘、観光ビデオクリップ更新、ご当地ソフトクリーム改良等の授業の成果を下市町が継続的に活用することにより地方創生の推進にも繋がると考えており、その過程を学生が見て学ぶことにより地域での仕事に興味を持ち県内で働き活躍する人材の育成にも寄与したいと考えています。その中で下市町を含むCOC+参加協働機関への就職の呼びかけも行っていきたいです。

最後に、大学、学生、地域、企業、行政等を繋げコーディネート等も行いう非常勤職員を下市アクティビティセンターに配置頂いたことにより、学生らが下市町などをフィールドに活発で効果的な活動（学習）を行うことができたと考えており、今後も継続して頂きたいです。

2. 3 野迫川村

(1) 奈良女子大学に対する活動の個別評価について

1) 奈良女子大塾活動に対する評価

- (A) 大変評価する
- (B) 評価する
- (C) あまり評価しない
- (D) 評価しない

2) 奈良女子大塾活動に対する評価に対するコメント

野迫川小・中学校の児童生徒数は、合わせて 18 名である。(平成 30 年 1 月現在)

野迫川村には進学を考えている子どもたちのための学習塾が無い。学習塾に通うには村外の遠く離れた塾に通うため、親の送り迎えが必要で、全ての子どもたちが通える訳では無いため、こうして塾を開いて頂けることは、非常に有難いことである。

また、村内に高校や大学が存在しないため、中学生は卒業後には村を離れることになる。

そして、村内に高校・大学が無いことで、子どもたちが大学生と触れあう機会も少ないというのが現在の状況である。そのような環境の中で、村内で大学生と触れあうことが出来る、大変貴重な機会となった。



図1 勉強の様子



図2 調理実習



図3 ダンスの様子

3) 総合評価

- (A) 大変評価する
- (B) 評価する
- (C) あまり評価しない
- (D) 評価しない

4) 総合評価に対するコメント

人口が少なく少子高齢化が進む本村において、塾の開催等、大学生が積極的に村民と関わることにより、児童生徒は喜び、村も活気づくため、今後も村民との交流をより一層深めてもらいたい。

児童生徒は塾で大学生と触れあうことで、自分の将来について深く考えるきっかけにもなり、進路の選択をする際に、より明確なイメージを持つことができ、良い刺激を受ける機会になった。

大学生にとっても、活動の中で村民との交流を通じて、本村での経験を今後活かせるよう、有意義なものになれば幸いである。

2. 4 十津川村

(1) 奈良女子大学に対する活動の個別評価について

1) 地域でのヒアリング・ボランティア活動に対する評価

(A) 大変評価する

(B) 評価する

(C) あまり評価しない

(D) 評価しない

2) 地域でのヒアリング・ボランティア活動に対するコメント

6月17日、18日、「谷瀬の吊り橋」がかかる大字谷瀬で、7月15日、16日、日本の滝100選にも選ばれている「笹の滝」がある大字内原で、観光客や地域住民の目につく散歩道沿いや公民館前に花の植栽を行うとともに、地域住民への今と昔の暮らしの違いについてヒアリングを行った。

また、大字谷瀬では、上記以外の日程でも散歩道沿いの看板作成や今と昔の暮らしを展示するパネルの作成など集落の魅力を発信する取組を行った。

花の植栽にあたっては、地域の人手不足からなかなか手の行き届かない部分であり、地域住民と協力しながら、植栽してもらうことで、良好な景観が整備され、地域住民の方も非常に喜ばれていた。

また、地域住民の方へのヒアリングにおいては、行政職員でも今と昔の暮らしの違いを聞く機会がないことから、昔と今で良くなった点・悪くなった点を直接伺うことができ、課題を聞き取ることができた。

あわせて大学生と地域住民の交流が図られることで、地域住民のいきいきとした表情を見ることができた。



図1 大字谷瀬での植栽



図2 大字内原でのヒアリング

3) 総合評価

(A) 大変評価する

(B) 評価する

(C) あまり評価しない

(D) 評価しない

4) 総合評価に対するコメント

10月21日、22日と奈良の木造形演習として、木造公共施設や林地の見学、間伐体験やチェーンソー体験を行う予定であったが、台風接近のため、やむなく中止となってしまったことが非常に残念であった。

しかし、各地域での活動により、地域住民が生き生きと交流する機会を得られるとともに、地域のため大学生に活動してもらえることが地域住民の励みにもつながっているため、継続してこの取組を続けてもらいたい。

また、大学生が少しでも地域とそこに住む人に魅力を感じてもらい、移住定住につながることを大いに期待したい。